

自治医科大学附属さいたま医療センター 卒後臨床研修プログラム

GUIDE 2024

「専門研修プログラム対応」

Postgraduate Clinical Training Program

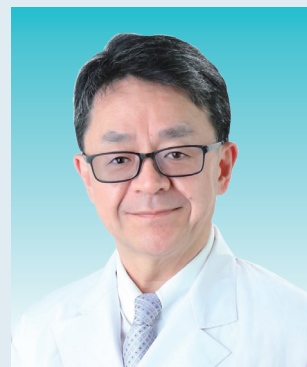


自治医科大学附属さいたま医療センター

センター長の挨拶

自治医科大学附属さいたま医療センター長

遠藤 俊輔



自治医科大学附属さいたま医療センターは東京に隣接した人口130万余の“さいたま市”にあり、さいたま市およびその周辺を含む埼玉県中央部における中核医療施設として市民病院的な役割を担っているとともに、大学病院としての高度専門医療の提供も重要な責務としています。平成元年に許可病床数200床の病院として自治医科大学附属大宮医療センターの名称で開設されましたが、平成13年に旧大宮市、浦和市、与野市が合併し平成17年には旧岩槻市も加わりさいたま市になったことから、当センターも平成19年7月にさいたま医療センターに改名いたしました。

当初は地域医療を支える自治医科大学の卒業生による総合診療の基幹病院としての役割と地元大宮市（当時）が切望していた急性期循環器疾患に対する高度先進医療の提供を中心としておりましたが、年々、循環器以外の領域についても最先端の高度医療の提供を求められるようになり、毎年のように増床を重ねて現在では許可病床数も628床となり、全ての専門分野において高度医療を提供する施設となりました。しかし、設立の目的の1つである総合医診療の実践と総合医の育成についての努力も脈々と続いており、大学病院では経験することの少ない所謂Common Diseaseの診療も決しておるそかにすることはなく、また一方では、大学病院として一般の市中病院では診られない稀有な疾患や最先端の技術を駆使した高度医療を必要とする症例に至るまでの多彩な疾患の診療に当たっております。

このように当センターが一般市民病院と大学病院の特徴を併せ持ち、極めて豊富な症例に対応していることは、専門医志向の医師からは必ずしも歓迎されない面もあり、また、病院経営としても非効率的と言わざるを得ないところも多々あります。しかし、病気はある特定の臓器の部分的な障害であることはむしろ稀であり、医師本来の役割としては例え専門医であっても患者の多様な訴えに対して基本的な対応はできなければならないことは言うまでもありません。また一方で、基本的な対応だけでは事足りず高度医療を必要とする場合も少なくなく、当センターのように広い裾野と幾つもの高い峰を抱える病院は、臨床研修という面でも稀有な価値を持つと確信しております。

自治医科大学はへき地などの地域医療に貢献する医師を育成する医科大学です。従って、本学卒業生は地域医療で活躍しておりますが、当センターの指導医の中にはそのような地域医療を長年経験してきた本学卒業生が多数おります。これらの医師達による理屈や理想論に留まらない実地経験に基づいた筋金入りの総合診療の指導が受けられるということも当センターでの臨床研修として特筆されます。これらの利点・特徴を生かして当センターでは現在の臨床研修制度義務化（平成16年施行）が始まる前の当センター開設当初よりスーパーローテーションによる初期臨床研修を行ってきました。同時に、大学病院としての高度先進医療においてもその充実に努め、開院当初より我が国でも屈指の技術と症例数により世に知られるようになった虚血性心疾患の診療にとどまらず、現在では、血液疾患の骨髄移植治療、耳鼻咽喉科の鼓室形成術、肝胆脾外科手術、肺がん手術、子宮内膜症の治療など、多くの分野で埼玉県下はもとより全国的にも高い評価を得るに至っております。また、平成22年度には地域周産期母子医療センターに認定され、平成26年度からは地域がん診療連携拠点病院の指定を受けるとともに、新たに精神科、救急科を標榜しました。救急医療については、平成28年に救命救急センターを開設するなど、ますますの充実を図っています。

このように、当センターでの研修は長年の地域医療の経験に基づいた総合診療の基盤に立つ指導とそれに続く高度専門医療の研修を可能にしていることなど多くの特徴をもつと自負していますが、中でもそれぞれの専門領域で第一線に立つ専門医たちが、自治医科大学の建学の精神に基づいて、総合診療の重要性を理解してそれぞれの専門領域という壁を立てずに研修の指導に当たっているということが最も大きな特徴と言えるでしょう。また、さらに良質な研修を提供できるように、意欲のある若い医師の期待に応える研修体制の改善に努力を続けております。多くの有能な研修医（レジデント）の参加を期待しております。



一般研修プログラム・ホスピタリスト重視プログラム責任者

卒後臨床研修室長

大河原 晋



自治医科大学附属さいたま医療センターは創立以来、総合医養成を主眼としたプログラムを全国でもいち早く取り入れ、一貫してスーパーローテーション方式の研修実績を積み上げてきました。大学病院では経験することの少ないCommon Diseaseの研修を決しておこなうことはなく、一方で、一般の市中病院では診られない稀有な疾患や最先端の医療技術を駆使した高度医療を必要とする症例にいたるまで多彩な疾患の診療に当たっています。

一般プログラムは、総合医学オープン、内科、外科、救急、外科系専門の5コースから選択できます。将来、皆さんが、どの専門診療科を専攻することになっても、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるように、医師としての人格を涵養し、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけるための研修構成になっており、5つの特色があります。

1. 厚生労働省指定の必修分野に加えて、**麻酔科研修を必修**としました。
2. **全ての内科**（循環器内科、消化器内科、脳神経内科、血液科、腎臓内科、リウマチ膠原病科、呼吸器内科、内分泌代謝科、総合診療科）を研修します。
3. **地域医療と一般外来を並行研修の8週間**とし、Common diseaseの外来診療を十分に経験します。

4. 研修期間を通じて週1回（夜勤または休日日勤）程度の**救急研修を継続**することで、初期診療能力の足腰を鍛えます。

5. **オプション**は、皆さんが希望する研修内容を個別に取り入れるように柔軟に対応します。

ホスピタリスト重視プログラムは、2010年から開始された当医療センターとさいたま市民医療センター、または、2020年から開始された当医療センターとさいたま赤十字病院との「たすき掛け」プログラムで、都市での病院総合医や地域での総合医を目指している研修医に向いています。

入職時には、シミュレーション、シャドーイング、電子カルテ、ICLSなどの実習からなるきめ細かなオリエンテーションがありますので、臨床研修を円滑に開始できます。このような特色あるプログラムによって、「患者にとって最善をめざす総合医療」と「高度先進医療をめざす専門医療」の一体化とそれを実践する幅広い医学知識と技能を有し、深い人間性に基づいた優れた臨床能力を発揮できる医師を養成していきます。これらの研修プログラムは、卒後3年目以降の専門研修プログラムとも連動していますので、各専門医の取得だけでなく、社会人大学院や大学院へ進学し、学位（医学博士）を取得することも可能です。当医療センターの研修医は、全国から集まります。様々な情報を研修医間でも共有し、卒後臨床研修室との意見交換を通じて研修プログラムの見直しを行っています。豊かな経験と業績をもつ指導医、教職員が皆さんの研修を支援します。

小児科研修プログラム責任者

教授

細野 茂春



プログラムの目標として子どもの総合医療、小児救急医療、新生児医療を実践できる十分な診療能力を備えることとしています。

特徴としては、

1) 小児救急医療と新生児医療の研修の重視

小児救急や新生児では臓器別ではなく、さまざまな臓器疾患の小児救急医療、新生児医療を行なわねばなりません。このため1つの臓器に偏ることなく、幅広い知識が必要となります。

現在、さいたま市小児救急医療の2次救急指定病院として週に2回の輪番業務を行なっています。希望するレジデントは指導医とともに当直研修を行なっていますが、この当直研修は小児救急医療の研修としてきわめて有用です。また、小児病棟の他、NICUを含む新生児病棟を有し、充実した新生児医療の研修ができます。

2) 超音波検査の実践

超音波検査は被曝がなく非侵襲的であり、小児領域では第一選択となるべき画像診断法です。しかし、多くの大学病院や小児病院では、専門スタッフが検査を担当しているため、レジデント自らが検査に従事して手技を学ぶ機会は少ないです。当センター小児科では最新の超音波診断装置を6台有し、上級医の適切な指導を受けながらレジデント自らが超音波検査を行なっています。

産婦人科研修プログラム責任者

教授

桑田 知之



自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科プログラムは、婦人科疾患を扱う「産婦人科」と、産科疾患を扱う「周産期科」の2科で構成されています。「周産期科」は「産科」と「新生児科」、「小児外科」で構成され、多くを学ぶことができます。産婦人科プログラムの指導者は、産科担当の教授、婦人科担当の教授計3名を中心に、数多くの疾患を経験したスタッフで組織され、懇切丁寧に、一人一人の研修医のペースにあわせながら指導しています。

埼玉県は人口比で全国一産婦人科医師数が少ない県として知られており、多くの産婦人科医師を必要としています。このため、必要医師数よりも患者数の方が多く、豊富な症例を研修医のうちに経験し、研修終了後は即戦力として活躍することができます。当センター産婦人科プログラムの特徴として以下の3項目が挙げられます。プログラムの最終目標として、産科学、婦人科学のいずれにも偏ることなく、産婦人科医療を実践するための十分な診療能力を身につけられるようにすることとしています。

1) 豊富な疾患を集学的に学ぶ

埼玉県の人口は、本院のある栃木県の人口の約3.5倍です。分娩数も約4倍あり、さいたま市ひとつだけでほぼ栃木県の分娩数に匹敵します。このため、多くの症例が当院に紹介されます。特に他科合併症を持つ患者が多く、他の診療科と協力して総合的な治療を行います。当センターは診療科毎の垣根も低く、他科医師からも多くのことを教えてもらえます。産婦人科の知識だけでなく

く他科の知識をも集学した、総合的な治療を習得し、実践できるようになります。

2) 超音波出生前診断技法を習得する

当センターは埼玉県の胎児超音波遠隔診断の4拠点のうちの1つとなっており、診断に困る症例の相談窓口となっています。このため、多くの胎児診断を経験することができ、超音波の基本から応用まで学ぶことができます。担当教授は多くの超音波専門医を養成しており、専門医取得後の資格取得にも有利です。

3) 腹腔鏡手術手技を習得する

担当教授は、国内で腹腔鏡が導入され始めた頃から、腹腔鏡手術を行なっています。これまでに多くの腹腔鏡手術の技術認定医を養成しており、研修希望者も数多くいます。今や腹腔鏡手術は婦人科手術手技の基本となっており、これを研修医から学べる環境にあることは、大きなアドバンテージとなります。

一般研修プログラム 定員22名

一般研修プログラムには、総合医学オープンコース、内科コース、救急コース、外科専門医コース、外科系専門診療科コースがあります。どのコースも、将来の専攻科を決めていない場合にも応募できます。ここには、ローテーション例を示しています。ローテーション順は、研修医ごとに決められます。



1. 総合医学オープンコース

必須分野の内科、外科、救急科、精神科、産婦人科、小児科、地域医療および一般外来と麻酔科以外は、当医療センターの中の診療科から選択するオプションAです。

オプション	救急 (8週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	外科 (8週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	産婦人科 (4週)	麻酔科 (4週)	小児科 (4週)	オプションA (4週)	オプションA (4週)	オプションA (4週)	オプションA (4週)	オプションA (4週)	オプションA (4週)	オプションA (4週)

2. 内科コース

総合医と専門医のバランスのとれた内科医の養成を目指しています。将来、内科専門医を目指している研修医は、J-OSLER（日本内科学会の症例登録システム）に登録できる最大症例数（80例）と最大病歴数（14例）を確保することも可能です。オプションBでは、当医療センター以外の協力研修施設も選択できます。

オプション	救急 (8週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科選択 (4週)	内科選択 (4週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	産婦人科 (4週)	麻酔科 (4週)	小児科 (4週)	外科 (8週)		オプションA (4週)	オプションA (4週)	オプションA (4週)	オプションB (4週)	オプションB (4週)	オプションB (4週)

3. 外科専門医コース

日本外科学会専門医志望者（一般・消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科）に最適なコースです。いずれの診療科も国内有数の手術症例数を誇り、周術期管理から基本手技まで十分なトレーニングが受けられます。本コースを選択することで、日本外科学会外科専門医取得に必要な症例を初期研修期間中に一部経験することができます。

オプション	救急 (8週)	外科 (8週)		外科選択 (4週)	外科選択 (4週)	外科選択 (4週)	心臓血管外科 (4週)	呼吸器外科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	産婦人科 (4週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	小児科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	麻酔科 (8週)		オプションB (4週)

4. 外科系専門診療科コース

外科系診療科の中でも眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・形成外科・整形外科・脳神経外科・麻酔科を志望する人に最適なコースです。専門診療科の研修は上記診療科の中から複数を選択することも可能です。

オプション	救急 (8週)	外科 (8週)		内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	小児科 (4週)	産婦人科 (4週)	麻酔科 (8週)		専門診療科 (12週)			オプションB (4週)	オプションB (4週)	オプションB (4週)

5. 救急コース

救急専門医を志望する人に最適です。当センターの救命救急センターは年間救急車搬送台数9,200台以上（2018年度実績）を有しており、救急医療全般に対応しています。コースは、急性期総合医療を目標に、内科系・外科系全般と外傷の診断・管理が幅広く学べるように構成しています。

オプション	救急 (12週)	外科 (8週)		内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	脳外or整外 (4週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	小児科 (4週)	産婦人科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	ICU (4週)	麻酔科 (8週)		オプションB (4週)	オプションB (4週)

小児科研修プログラム 定員2名

小児科志望者に最適なプログラムです。産婦人科、麻酔科、外科、ICUは小児科研修に必修として研修することとしています。オプションは研修医の希望により、検査手技の習得や他の診療科目の研修を目的として、比較的自由に選択することができます。

オリエンテーション	救急 (8週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	外科 (8週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	産婦人科 (4週)	小児科 (12週)			ICU (4週)	麻酔科 (8週)	オプションB (4週)	オプションB (4週)	オプションB (4週)

産婦人科研修プログラム 定員2名

産婦人科志望者に最適なプログラムです。ローテーションは順不同ですが、麻酔科、小児科、NICUなど、将来産婦人科医として必要な知識を習得できるプログラム内容となっています。産科8週、婦人科8週を重点的に研修することで、必要な手術手技の習得や、内診や超音波など産婦人科診療手技の基礎が習得できるだけでなく、全身管理の修練を積むことも可能です。多くの臨床例に立ち会える機会が得られ、充実した研修生活を送ることができます。

オリエンテーション	救急 (8週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	外科 (8週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	小児科 (4週)	産科 (8週)		婦人科 (8週)		NICU (4週)	麻酔科 (8週)	オプションB (4週)	オプションB (4週)

ホスピタリスト重視プログラム 定員2名

地域のニーズに応える病院総合医として活躍したい研修医向きの市中病院との「たすき掛け」プログラムです。研修協力病院のさいたま市民医療センター、または、さいたま赤十字病院と連携しています。さいたま赤十字病院で受入可能な定員は1名です。

※たすき掛け協力型病院：さいたま市民医療センター

自治医科大学附属さいたま医療センター					さいたま市民医療センター					
オリエンテーション	救急 (8週)	内科 (4週)	内科 (4週)	外科 (8週)	内科 (4週)	内科 (4週)	小児科 (8週)	内科 (4週)	内科 (4週)	
さいたま市民医療センター			協力型病院		自治医科大学附属さいたま医療センター					
救急 (8週)	選択 (4週)	選択 (4週)	精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	産婦人科 (4週)	内科 (4週)	内科 (4週)	麻酔科 (4週)	オプションA (4週)	オプションA (4週)

※たすき掛け協力型病院：さいたま赤十字病院

自治医科大学附属さいたま医療センター					さいたま赤十字病院					
オリエンテーション	救急 (8週)	内科 (4週)	内科 (4週)	外科 (8週)	内科 (8週)	外科／産婦人科／ 内科(8週)		内科 (8週)		
さいたま赤十字病院			協力型病院		自治医科大学附属さいたま医療センター					
救急 (8週)	選択 (4週)	選択 (4週)	精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	産婦人科 (4週)	小児科 (8週)		麻酔科 (4週)	オプションA (4週)	オプションA (4週)

主な留意事項（全プログラム共通）

※ローテーションはいずれも順不同ですが、地域医療・一般外来研修は2年目とします。

※採用後に行うオリエンテーション終了後は、第2クールのローテーションでの研修を開始します。

※救急科はブロック研修に加え、週1回の日当直研修を通年で実施します。

※外科は一般・消化器外科での研修が原則ですが、希望者は4週のみ心臓血管外科又は呼吸器外科での研修も選択できます。

※オプションAは、自治医科大学附属さいたま医療センターの診療科から選択します。

※オプションBは、協力型病院での研修も選択することができます。

※オプションは原則として4週間単位ですが、自治医科大学附属さいたま医療センターにおいて認められる診療科では、2週間単位の研修も可能です。

※必修の麻酔科研修が4週間のコース・プログラムでは、オプションでの麻酔科選択を推奨します。

※オプションでの同一診療科の選択は2クールまでとします。

❖ 総合回診・研修医セミナー

毎週水曜日午後4時に開催される総合回診は、当センター開設以来継続されています。

研修医が1症例に20分をかけてケース・プレゼンテーションを行い、プロブレムリスト、鑑別診断、必要な検査を検討した後、Q&A方式の考察が発表されます。内容の一部は「m3.com」の“研修最前線”に連載されています。

総合回診終了後には、各診療科の持ち回りでセミナーを開催しています。

研修医の臨床的な知識・技術の向上を目的とした20分間のセミナーで、臨床で研修医が直面した問題に対してどのように考えたら良いか、という視点も取り入れた内容となるよう工夫しており、Take Home Message「今日から使える知識」を伝えています。



執筆陣は初期・後期研修医とその指導医達で、総合回診で発表された症例・症候をまとめました。臨床推論に最適、実践的な書です。巻末にはFujimoto客員教授による症例提示法と臨床推論についての特別寄稿があります。

❖ 救命救急センター日当直研修

臨床研修中は週1回程の頻度で救命救急センターでの日当直研修を行います。2年間を通して救急研修を継続することで、初期診療能力の足腰を鍛えます。日当直では1年目と2年目の研修医がペアになり救急対応を行います。研修医がアセスメント・治療を提示し、経験豊富な指導医からフィードバックを受ける環境が整っています。



❖ オリエンテーション（シミュレーション実習・ICLS）

採用後、各診療科・病棟での研修開始の前に約1週間かけてオリエンテーションを行います。

オリエンテーションでは点滴採血や腰椎穿刺、動脈穿刺、皮膚縫合、気管挿管等をシミュレーターを使用して先輩研修医から指導を受ける機会もあります。

また、オリエンテーションの一環としてICLS講習会を開催しています。指導医や先輩研修医、看護師等から1日かけて心肺蘇生術を学ぶことができ、研修医からも有意義な研修と高い評価を得ています。



✿ 協力型臨床研修病院・臨床研修協力施設

次の病院と協力して臨床研修を行います。

※「オプションB」では各病院で研修可能な診療科を選択することができます。

病院・施設名	所在地	研修を行う分野
さいたま市民医療センター	さいたま市西区	内科、救急科（ホスピタリスト重視プログラム）、小児科、選択科（オプションB）
さいたま赤十字病院	さいたま市中央区	内科、外科、救急科（ホスピタリスト重視プログラム）、選択科（オプションB）
社会福祉法人シナプス 埼玉精神神経センター	さいたま市中央区	精神科
埼玉県立精神医療センター	埼玉県 北足立郡伊奈町	精神科
順天堂大学医学部附属 順天堂越谷病院	埼玉県越谷市	精神科
医療法人社団輔仁会 大宮厚生病院	さいたま市見沼区	精神科
自治医科大学附属病院	栃木県下野市	精神科、選択科（オプションB）
秩父市立病院	埼玉県秩父市	地域医療（一般外来）、選択科（オプションB）
秩父市大滝国民健康保険 診療所	埼玉県秩父市	地域医療（在宅医療）
国保町立小鹿野中央病院	埼玉県秩父郡 小鹿野町	地域医療（一般外来、在宅医療）
JCHOさいたま 北部医療センター	さいたま市北区	地域医療（一般外来、在宅医療）
大宮双愛病院	さいたま市大宮区	地域医療（一般外来、在宅医療）
南魚沼市民病院	新潟県南魚沼市	地域医療（一般外来、在宅医療）
南魚沼市立 ゆきぐに大和病院	新潟県南魚沼市	地域医療（一般外来、在宅医療）





レジデントからのメッセージ

ジュニアレジデントの
出身大学一覧
(2004年～2023年)



一般研修プログラム・総合医学オープンコース
ジュニアレジデント(2年目)(2022年度入職)

片山 優翔先生



総合医学オープンコースではオプションとして選択できる期間が7ヶ月と他のコースよりも長いことが特徴的です。学生の時点で将来の診療科を決めていない方にとって、診療科を決める時間をしっかり確保でき、おすすめです。当の私も将来の診療科を決めかねておりましたが、選択期間が長く充分に考える時間を頂けました。

また、すでに診療科を決めている方にもおすすめです。興味のある診療科を複数期間選択することも可能ですし、将来の専門以外の診療科をローテすることでマイナープロブレムの対応を学ぶことも可能です。志望科が途中で変更になった際にも、オプションは柔軟に変更できますので、自分の希望のローテーションを組み立てるこ



一般研修プログラム・内科コース
ジュニアレジデント(2年目)(2022年度入職)

鈴木 菜緒先生



内科系診療科のうち多くの科ではチーム毎に10-15人程度の患者が割り振られており、研修医はチームの上級医と適宜相談しながら持ち患者の病棟管理や新規入院患者の身体診察を行います。例えば消化器内科では小腸出血疑いや肝移植後のAIH-PBCオーバーラップ症候群の全身管理などの希少・重症例から、消化管出血やイレウスや胆管炎など比較的Commonな疾患まで幅広く経験ができました。当院は市中病院の良さを併せ持つ大学病院です。自治医大から医学部4-5年生がBSLに来てくれます。診察した症例について勉強熱心な学生さんとアセスメントし、疑問点を一緒に調べてみたり、良い刺激をもらいます。レジデントの発表機会は豊富です。科



一般研修プログラム・外科専門医コース
ジュニアレジデント(2年目)(2022年度入職)

森 弘帆先生



外科専門医コースは、外科専門医、サブスペシャリティとして主に消化器一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科を目指すコースです。それぞれの専門医取得には一定以上の手術症例を経験する必要があります。初期研修の期間により多く経験することで後期研修ではよりサブスペシャリティ領域に重点を置いた研修が可能になります。また、内科、救急科、麻酔科の研修期間が確保されており、ホスピタリストを目指す上でも充実した研修環境です。

外科医を志す上で初期研修のうちに身につける能力として、基本的な手技、解剖を理解し手術の全体像を把握すること、周術期管理が挙げられます。当院ではドライボックスやウェットラボがあ

とができます。

このコースの注意点としては、当センターの診療科のみ選択できるという点です。初期研修の段階で複数の病院で研修したいという希望がある方は他のコースのプログラム内容も確認してみてくださいね。

当センターの研修医は1学年に30人おり、合計で60人います。出身大学も幅広く、学閥などないため居心地の良い研修環境だと思います。研修医同士で、お互いに励まし合い、切磋琢磨し合いながら研修を行うことができます。当直で経験した症例を共有したり、気になるテーマを話し合う時間は非常に勉強になります。また研修医の人数は多いですが、手技や症例は豊富にあり、多くのことを経験できます。最初は慣れないことも多いですが2年目の先輩方から優しく教えて頂けたり、指導医の先生のバックアップのもと、確実にスキルアップできます。各診療科も風通しがよく、先生方も優しく指導熱心であり充実した研修を行っていることを実感しております。

魅力満載で充実した2年間の研修を行うことができる病院だと思います。少しでも興味を持たれましたら、是非一度見学にお越しください。職員一同、皆様にお会いできる日を楽しみにしています。

のカンファでのプレゼンはもちろん、毎週水曜に研修医が持ち回りで担当している総合回診では興味のある症例を自ら選んで学会形式で症例発表ができます。また不定期に海外招聘講師への英語での症例提示の機会もあります。月4回の救急当直では研修医が主治医となって検査をオーダーしてアセスメントし、救急科の先生から沢山のフィードバックをもらえます。当直に入るジュニアレジデントは1年目2名、2年目2名の計4名です。慣れないうちは1、2年目がペアになって診察します。当直帯で入院した患者のフルプレゼンを翌朝救急科カンファで行います。他のレジデントの発表を聞くことで症例の疑似体験もでき非常に勉強になります。レジデントはさまざまな背景や志望科をもつ人たちが、埼玉に縁がある人ない人問わず全国各地から集まります。2学年で60人と大所帯ですが、当センターは多くの症例に恵まれているため疾患・手技のために症例の取り扱いといったことは今まで経験ありません。仕事では切磋琢磨し、就業後飲みに行ったり、休日は一緒に出かけたり、同期の存在はとても大きいです。当院を初期研修先を選んで本当に良かったと思っています。

り、外科上級医ご指導の下、縫合、糸結びなどをトレーニングすることができます。外科研修中は、主に助手として術野に入り、手術の流れを学びます。2年次には執刀機会が与えられ、手術プランの立案から手術記録作成までを担当します。事前準備を入念に行い大変緊張感のある経験ですが、実際に患者様の手術を担当した際は外科医としての第一歩を踏み出したような心持になり、さらなるモチベーションへ繋がります。経験症例としては大学病院であるため専門性の高い症例がある一方で、手術室、麻酔科、ICUとの連携が確立されており、救急外来からの緊急手術が大変多いです。腸閉塞、胆管炎、虫垂炎、気胸、大動脈解離、肺血栓塞栓症などがあり、当直中に自分が診断した患者様がそのまま手術になる症例も度々経験します。周術期管理についてはチームで病棟業務を担当しながら栄養管理や感染症対策、術後合併症などへの対応を学びます。周術期の症候や検査、点滴、内服薬の処方などを一通り経験することができます。

最後に、内科研修も十分に確保されており、患者様の抱える様々なプロブレムへ対応する能力が身につくと考えます。当院で研修し、ホスピタリストそして外科医への道を歩みましょう。

旭川医科大学	獨協医科大学	昭和大学	北里大学	金沢大学	名古屋大学	鳥根大学	産業医科大学
北海道大学	自治医科大学	帝京大学	東邦大学	金沢医科大学	藤田医科大学	川崎医科大学	佐賀大学
弘前大学	国際医療福祉大学	東京大学	慶應義塾大学	福井大学	三重大学	山口大学	長崎大学
秋田大学	群馬大学	東京医科大学	横浜市立大学	山梨大学	滋賀医科大学	徳島大学	熊本大学
東北大学	埼玉医科大学	東京慈恵会医科大学	聖マリアンナ医科大学	信州大学	奈良県立医科大学	香川大学	大分大学
山形大学	千葉大学	東京女子医科大学	東海大学	岐阜大学	和歌山県立医科大学	高知大学	宮崎大学
福島県立医科大学	杏林大学	日本大学	新潟大学	浜松医科大学	鳥取大学	愛媛大学	鹿児島大学
筑波大学	順天堂大学	日本医科大学	富山大学	愛知医科大学	広島大学	福岡大学	琉球大学



小児科研修プログラム

ジュニアレジデント(2年目)(2022年度入職)

加藤 清香先生



『小児科研修プログラム』とは、初期研修期間中に様々な診療科で医師として基本的な診療の知識や技術を取得するとともに、小児科に特化したコース(12週間必修)で小児医療を学ぶことができるものです。将来小児科医を志す医師にとっては小児疾患に触れることができる最適なコースともいえます。

小児科研修で学ぶことのできる内容の一例としては、小児疾患の診断や治療に必要な知識や技術、治療薬の使用法や投与量の計算方法などです。当院は週2回の小児輪番制度を担っているため、救急の初期対応や入院中の管理を経験することができます。また小児は成長発達途上であり、疾患が及ぼす精神的、身体的、社会的影響について、更に保護者との関係性についてなども、上級医師から適切なアドバイスをいた

ださながら、対人スキルを含めた小児科医のイロハを学ぶことができます。

一方、全ての内科・救急科・麻酔科・ICUなどの診療科が必修となっており実践経験を積むことができます。また、月4回程度の救急当直では自分自身で患者と直接向き合いながら、診断し必要な検査や治療を選択することを経験しています。

当院は看護師や薬剤師、技師などの医療スタッフとの関係性が良く、患者や家族に対する視点の違いを共有することで、より良い医療スタッフとの関係性が良く、患者や家族に対する視点の違いを共有することで、より良い医療とは何かを学ぶことができます。

国立や私立、男女比などのバランスのとれた研修医が60人も在籍しており、先輩や同期、後輩との意見交換を通じて多角的な知見を得ることができます。それにより自身の学習意欲が高まり、より充実した研修生活を送ることができていると日々感じています。

初期研修は医師としてのキャリアのスタート地点となります。当院で身につけたことは今後それぞれの専門科に進む上での土台となり、患者の健康に貢献することができますと思います。長くお話ししましたが、少しでも興味を持っていただけたら、是非当院に見学いらして雰囲気を感じてみてください。



産婦人科研修プログラム

ジュニアレジデント(2年目)(2022年度入職)

小築香奈子先生



当センターの産婦人科研修プログラムは、産科と婦人科の研修期間がそれぞれ8週間あります。また、必修期間が4週間である麻酔科が初めから8週間予定されていて、多くの婦人科手術はもちろん、帝王切開の麻酔の担当にいただき、産婦人科ローテート以外でも多くの産婦人科手術を見ることができます。さらにNICUがプログラムに組み込まれており、将来産婦人科医として働く際に必要な知識を習得することができます。産婦人科では内診やエコー、手術の執刀・助手の機会を多くいただけます。上級医の数が多く、事前に資料をいただけるなど丁寧に指導して下さります。学年の近い上級医も多く、質問しやすい雰囲気です。先輩方が手術を執刀なさった際にはその緊張感が伝わりましたが、多くのことを学べる大変貴重な機会と伺いまし

た。オプション期間は他のコースに比べると少ないですが、産婦人科を重点的に研修でき、産婦人科志望の方にもってこのコースと考えられています。

当センターの強みとして、初期研修で内科全般の疾患を一通り学び、適切に診療できるように研修プログラムが組まれている点が挙げられます。当センターは大学病院でありながら、commonな疾患から稀少な症例まで様々な経験ができます。また、教育熱心な指導医が多く、幅広く様々なことを学ぶことができます。同期も30人と少し多く感じる方もいると思いますが、一人一人様々な診療科をローテートしているため、日々学んだことをフィードバックでき切磋琢磨しながら研修しています。初期研修に必要な知識、手技等を一通り学ぶ環境が整っていると感じます。さらに、研修は慣れないことだらけで不安も多いですが、指導医との定期的な面談を通して研修状況や悩みなどを相談できるためモチベーションを保つことができます。

以上がプログラムの説明と当センターの特徴です。このメッセージだけでは伝わらないこともあるかと思いますが、人によって気になる点も異なると思いますので、当センターにぜひ一度でも二度でも見学にいらしてください。



ホスピタリスト重視プログラム

ジュニアレジデント(2年目)(2022年度入職)

西山陽一朗先生



ホスピタリスト重視プログラムは、高度急性期病院である大学病院と地域医療支援型病院の両方で研修を行う「たすき掛け」コースです。私はスペシャリストとジェネラリストの両側面を持ち合わせた医療を実践し、トータルケアを通して地域医療に貢献出来る医師を志し、common diseaseから高度疾患の治療・管理まで幅広く経験することの出来る本プログラムをととても魅力に感じ選択しました。自治医科大学附属さいたま医療センターでの研修は、大学病院の特性上、日本語又は英語による院内での症例発表や学会発表、そして上級医による研修医レクチャーの機会が豊富で、academicな研修環境が整っています。救命救急センターに指定されており、外傷や中毒を含めた重篤な病態の患者さ

んの診療も数多く経験することが出来ます。また出身大学の異なる勉強熱心な研修医が多く集まっており、互いに切磋琢磨しながら成長することが出来ます。一方さいたま市民医療センターは、地域のクリニックからの紹介例も多く、walk in症例または救急搬送症例を、週1回の当直に加え、内科ローテート中は週1~2回の救急当番と2週間に1回の土曜日救急当番を通して経験出来るため、内科救急の経験を徹底的に積むことが出来ます。救急外来で帰宅とした患者さんを、後日指導医と共に内科再診外来でフォローアップすることも可能です。また入院となった患者さんは翌日朝の内科カンファレンスにてプレゼンテーションをして症例に対してのフィードバックをもらえるため、自らの課題を明確にして次の救急当番に臨むことができます。どちらの病院も指導熱心な上級医が揃っており、日々の些細な疑問にも丁寧かつ的確に指導していただける体制が整っています。性質の異なる2つの病院を良いところを組み合わせる研修することの出来る本プログラムを選択して良かったと、とても満足しています。ぜひあなたも環境に恵まれた本プログラムを選択し、3年目以降の後期研修に向けての土台を創りあげましょう。



当センターを基幹病院とする専門研修プログラム作成状況

※掲載している内容は、2023年6月1日現在で予定・申請されているものです。今後の審査の状況等により、変更が生じる場合があります。

専門領域	連携施設名
内科	済生会川口総合病院、川口市立医療センター、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、春日部市立医療センター、さいたま市民医療センター、さいたま市立病院、JCHO埼玉メディカルセンター、JCHOさいたま北部医療センター、さいたま赤十字病院、彩の国東大宮メディカルセンター、国立病院機構東京病院、博仁会共済病院、深谷赤十字病院、秩父市立病院、小鹿野中央病院、自治医科大学附属病院、練馬光が丘病院、南魚沼市立病院、三井記念病院、南魚沼市立ゆきぐに大和病院、東京大学医学部附属病院、秩父市立大滝国保診療所、北里大学病院、望星会望星病院、東京通信病院、東京都健康長寿医療センター、国立精神・神経医療研究センター病院、東京北医療センター、日高病院、高崎ハートホスピタル、公立学校共済組合関東中央病院、埼玉県立がんセンター、古河赤十字病院、熊谷総合病院、新井病院
小児科	さいたま赤十字病院、自治医科大学附属病院
外科	春日部中央総合病院、さいたま市立病院、さいたま赤十字病院、彩の国東大宮メディカルセンター、秩父市立病院、仙台市医療センター（仙台オープン病院）、JCHO東京新宿メディカルセンター、かみいち総合病院、練馬光が丘病院、東北大学病院、横浜市立みなと赤十字病院、横須賀市立うわまち病院、白河厚生総合病院、菅間記念病院、自治医科大学附属病院、埼玉県立病院、JCHOさいたま北部医療センター、博仁会共済病院、行田総合病院、富山大学附属病院、深谷赤十字病院
皮膚科	JCHOさいたま北部医療センター、春日部中央総合病院、東京慈恵会医科大学附属病院、さいたま市民医療センター、指扇病院、東京医科大学病院、東京慈恵会医科大学附属柏病院、東京慈恵会医科大学附属第三病院、東京慈恵会医科大学葛飾医療センター、戸田中央総合病院
産婦人科	埼玉協同病院、かしわざき産婦人科、自治医科大学附属病院、佐野厚生総合病院、足利赤十字病院、大宮レディースクリニック、丸山記念総合病院、名瀬徳州会病院、済生会川口総合病院、北里大学メディカルセンター、埼玉医科大学総合医療センター
眼科	自治医科大学附属病院、JCHOさいたま北部医療センター、日本大学医学部附属板橋病院、国際医療福祉大学三田病院、練馬光が丘病院、国際医療福祉大学成田病院
放射線科	獨協医科大学埼玉医療センター、上尾中央総合病院、日本赤十字社医療センター、東京医科歯科大学病院、自治医科大学附属病院
麻酔科	埼玉県立小児医療センター、さいたま赤十字病院、北里大学メディカルセンター、横須賀市立うわまち病院、昭和大学附属病院、自治医科大学附属病院、埼玉医科大学総合医療センター、さいたま市民医療センター、練馬光が丘病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、静岡市立静岡病院
病理診断科	埼玉協同病院、さいたま赤十字病院、自治医科大学附属病院、獨協医科大学埼玉医療センター、湘南藤沢徳州会病院
救急科	さいたま市民医療センター、さいたま赤十字病院、彩の国東大宮メディカルセンター、上尾中央総合病院、川越救急クリニック、埼玉医科大学総合医療センター、日本大学医学部附属板橋病院、千葉西総合病院、埼玉石心会病院、みさと健和病院、秩父市立病院（関連施設）、前橋赤十字病院、深谷赤十字病院
総合診療	済生会川口総合病院、さいたま市民医療センター、JCHOさいたま北部医療センター、彩の国東大宮メディカルセンター、博仁会共済病院、明医研ハーモニークリニック、深谷赤十字病院、秩父市立病院、小鹿野中央病院、南魚沼市立ゆきぐに大和病院
耳鼻咽喉科	さいたま市民医療センター、東京北医療センター、埼玉県立がんセンター、自治医科大学附属病院、東北大学病院
泌尿器科	さいたま市民医療センター、行田総合病院、板橋中央総合病院、北水会記念病院、日立総合病院、あいち小児保健医療総合センター、自治医科大学附属病院、筑波大学附属病院、国際医療福祉大学病院



専攻医・大学院生からのメッセージ



呼吸器内科シニアレジデント
2020年度初期研修修了
甘利ひかり先生



私は2年間の当センターでの初期研修を終え、2021年春より呼吸器内科に入局し3年目になります。

内科系の診療科にすすみたいとは考えていたものの、研修当初から呼吸器内科志望というわけではありませんでした。2年間の内科コースの研修では内科系診療科でバランスよく経験を積むことができ、また熱心な上級医からの指導を受けながら日々仲間と切磋琢磨していくなかで自分のやりたいことが見えてきたと思います。

初期研修期間を終えて後期研修先を選ぶなかで、私が引き続き当センターでの研修を希望した理由は、なんといっても当センターの雰囲気や診療科の垣根の低さが魅力的と感じたからです。初期研修期間を終えているとはいえ、まだまだ診療をしていくうえで疑問に思うことや悩むことは数多くあります。そんなときに他科の先生方にも気軽に質問をしたり、指導を受けることができる環境というのは本当にありがたく、自分が成長できる糧になると感じています。研修医のときから感じていたことですが、当センターには教育に熱心な指導医が多く、上級医が下の学年の医師の診療をフォローしフィードバックする基盤ができています。自分から学ぶ姿勢が大切なのはもちろんですが、自分だけでは解決できない臨床上の疑問をその場で指導頂けることは非常に心強いことです。

現在は呼吸器内科に入局し、内科専門医取得にむけて当センターでのローテーションの他に地域の病院での勤務などを行っています。地域の病院では自分が主治医として入院患者さんの受け持ち、治療方針や家族への説明などを基本的にすべて1人で行わなくてはなりません。苦勞する場面や悩むことも多いですが、そのたびに当センターで今まで学んできたことが生きていると実感しています。

私はまだまだ医師として未熟ですが、みなさんと一緒に成長できればと思います。

当センターでの研修に少しでも興味をもっていただければ嬉しいです。



泌尿器科専攻医（シニアレジデント）
2019年度初期研修修了
嘉指 公輔先生



2年間の初期研修を経て、継続して当センターで従事させていただくことになったのは、まずは診療科の垣根の低さであったと思います。

初期研修でお世話になった先生方には、コンサルテーションでも快く相談に乗ってください、時には進路の相談にも乗っていただきました。今回惜越ながらこの文章を書かせていただいているのも、消化器一般外科ローテーション中にお世話になった先生方からのご推薦を頂いたという流れでした。専攻医として働く中で、専攻分野はもちろん、その他の分野についても臨床的に悩むシーンは数多くあります。忙しい中でも気軽に相談に乗っていただける諸上級医の先生方の存在は、非常にありがたく、心強いものです。垣根の低さ故なのか、自身の専攻分野以外の知識にも明るい先生方も数多くいらっしゃいます。コンサルテーションを通して自身の専攻分野以外について日々勉強になることも、非常に面白い点だと感じます。

泌尿器科に限ったことではありませんが、若手に多くの機会を与える雰囲気があることも魅力の一つです。手厚いバックアップと、丁寧なフィードバックがあることで、独学による荒削りな知識や技術ではなく、ゴールドスタンダードを着実に身に付けられる環境があると思っています。他病院に勤務する大学の同期と比較して、着実に早期にかつ多くの貴重な症例を経験し、学ばせていただいていると自負しています。

このような環境だからこそ、多くの初期研修医がそのまま専攻医として勤務しています。私達の学年は17人が継続して勤務しています。共に切磋琢磨し、同じ困難や苦悩を乗り越えていた仲間達は、専攻医として各診療科に散らばった今でも、気軽に相談したり、お互いの存在を意識しモチベーションになったりするよきライバルでもあります。

初期研修を選択する際に、専門研修のイメージをするのは難しいかもしれませんが、皆さんの進路選択の参考になれば幸いです。一緒に診療に当たれることを楽しみにしています。



外科系
博士課程3年目（2021年入学）
町田枝里華先生



大学5年次の臨床実習で消化器外科に興味を持ち、当センターの外科専門医コースでの研修を志望しました。外科専門医取得に必要な手術症例を積みながら、他科での研修もまんべんなく行うことができ、術前評価や周術期管理に必要な知識を身に付けることができました。出身地とも卒業大学の地とも異なるさいたままでの研修でしたが、派閥のようなものは一切なく、充実した初期研修であったと思います。

他施設での後期研修も検討しましたが、初期研修で熱心に指導してくださった先生方と共に働きたいとの思いが勝り、卒後3年目に一般・消化器外科へ入局しました。入局後は上部・下部消化管、肝臓、膵、乳腺の臓器別チームのローテーションに加え、市中病院での研修の機会もいただき、数多くの手術症例を経験することができました。卒後5年目に外科専門医、卒後8年目に消化器外科専門医を取得しました。

外科医として手術や病棟管理、外来などの臨床業務に携わる日々は忙しくも非常に楽しい毎日でしたが、一方で大学病院に勤務する医師として一度腰を据えて学術的な研鑽を積みたいとの思いもあり、卒後8年目に自治医科大学大学院へ進学しました。現在は国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野で研究を行っています。研究テーマは大腸がんのゲノム解析に基づく治療効果判定／予後予測因子の同定です。大学院生活も2年以上が経過しましたが、最先端の研究機関で様々ながん種を専門とする先生方と共に活動させていただき、知識のアップデートや自身の研究を客観的・批判的に吟味することの重要性を痛感する毎日です。

当センターでは将来の志望科に沿ったバランスのよい初期研修が行えるのは勿論、大学院進学を含めた後期研修以降の進路についても様々なオプションを検討することができます。是非当センターでの研修を検討してみてください。お待ちしております。

募 集 要 項

募集人員

○一般プログラム 22名 ○小児科プログラム 2名 ○産婦人科プログラム 2名
○ホスピタリスト重視プログラム 2名

応募資格

ジュニアレジデント（医療法第16条の2第1項に規定する臨床研修）
・2024年3月に大学医学部または医科大学を卒業見込みの者
・2024年3月以前に大学医学部または医科大学を卒業し、2024年に医師免許を取得見込みの者
・2024年3月以前に医師免許を取得し、（初期）臨床研修を未実施の者
上記いずれかの条件を満たし、マッチングシステムに参加登録する者

試験日程

詳細は当センターホームページをご確認ください。

受付期間

2023年7月3日(月)～2023年8月4日(金)（当日必着）

※上記予定には変更が生じることがあります。

詳細は当センターホームページをご確認ください。

方 法

面接試験

出願書類等

下記書類を一括して封筒に入れ郵送してください。

(1) 医師臨床研修申込書（学歴は高校卒業時から記入）、写真貼付
（当センター所定の書式による・ホームページからダウンロード可能）
連絡先については日中連絡のできる電話番号をお書きください。

(2) 卒業見込証明書

(3) 成績証明書（厳封）

(4) 共用試験（CBT）成績表写し

※再試受験者は、本誌・再試とも成績表写しをご提出ください。

送 付 先

※〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847

自治医科大学附属さいたま医療センター

卒後臨床研修室 まで

TEL.048-648-5225（卒後臨床研修室直通）

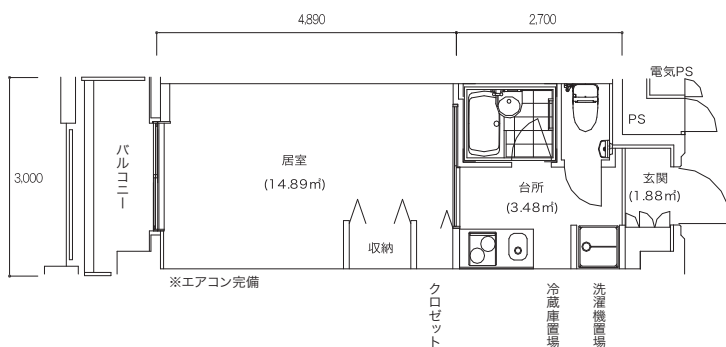
mail : rinshoukenshu2@omiya.jichi.ac.jp

身分及び待遇

- | | |
|---------|---|
| ① 身分 | さいたま医療センター職員 |
| ② 給与 | 1年次：約28万円/月＋時間外手当 2年次：約29万円/月＋時間外手当
賞与（1年次：約42万円/年 2年次：約67万円/年） |
| ③ 社会保険 | 日本私立学校振興・共済事業団 |
| ④ 宿舍 | 教職員住宅完備（下の写真参照）※世帯用もあります。 |
| ⑤ 福利厚生等 | 日光研修所、北軽井沢山荘、院内保育所、
フィットネスクラブ（法人会員）、食事料補助 3,500円/月、
学会旅費支給（上限あり）、院内表彰制度（優秀レジデント賞）あり、
勤務医師賠償責任保険（補償額2億円）に加入。
※初期研修の2年間は、当センターにて保険料（年額51,570円/人）を負担します。 |



ジュニアレジデント用宿舍
（単身者用、第10職員住宅）



ジュニアレジデント用宿舍 平面図（単身者用、一例）

研修内容説明会

2023年7月30日(日) 13:00～

※事前に参加申込をお願いします。

※上記予定には変更が生じることがあります。

詳細は当センターホームページをご確認ください。

実習生・見学生

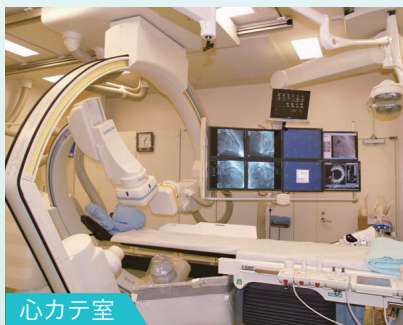
実習生・見学生を随時受け入れしておりますので、関心のある方はご連絡ください。

※新型コロナウイルス感染拡大状況により、見学の受付・実施を中止することがあります。詳細は当センターホームページをご確認ください。

センター内の紹介



MDCT室



心カテ室



オペ室



図書室



ドクターカー



管理・研究棟



ホスピタルアート



南館

本館

外来ゾーン



医師室



みぬま (レストラン・本館)



プリムローズ (レストラン・南館7階)



ファミリーマート



エネルギー棟

外来棟

福利厚生施設



日光研修所



北軽井沢山荘



院内保育所



第11職員住宅

センターの概要

センター長 遠 藤 俊 輔
副センター長 藤 田 英 雄
山 口 敦 司
細 野 茂 春
鈴 木 聡 子



■病床数 628床

■患者数等 (2022年度) 外来 1日平均 1,035人
入院 1日平均 493人
手術件数 7,572件
救急車年間搬送数 10,121件

■職員数 (2023年4月1日現在)

医師 360人
(内レジデント207人)
看護師 829人
医療技術職員 254人
事務職員・その他 131人
合計 1,574人

■標榜診療科

内科 循環器内科 小児科 外科 脳神経外科
心臓血管外科 整形外科 泌尿器科 眼科
耳鼻咽喉科 産婦人科 皮膚科 形成外科
リハビリテーション科 麻酔科 放射線科
精神科 歯科口腔外科 病理診断科 救急科

ACCESS



◎国際興業バス ●大宮駅東口から約1.8km (約10分)

4 番乗場 (大11) 自治医大医療センター行き → 「自治医大医療センター」下車
※平日朝6:50~17:48まで約12分毎に往復運転

7 番乗場 (大04-2) 大谷県営住宅行き (新道経由) → 「自治医大医療センター」下車

7 番乗場 (大02-2) 浦和学院高校行き (新道経由) → 「自治医大医療センター入口」下車

自治医科大学附属さいたま医療センター

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847 TEL.048-648-5225 (卒後臨床研修室直通)

<https://www.jichi.ac.jp/center/sotsugo/index.html>